

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	舊稿中より : 短歌
Author(s)	入江, 昂
Citation	龍南, 2 2 2 : 3 7 - 3 8
Issue date	1932-07-03
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7071
Right	

短
歌

舊稿中より

入
江
昂

えん先に爪きり居ればしみじみとこやり居し日の久しきを思ふ

爪さへも色さめにけり^{ナカヤミ}長病にいといたましく色さめにけり

はだしにて一人踏みけり東光原の刈り残されし一坪の芝生^{シバ}

——冬——

といといと兎追ふ聲しきりなり勢子でありし日ふと思ひたり

俺の行く手はきめた農民運動だと云ふ友のやせ細りたる身体をいとしむ

雨晴れて櫻の蕾色づくが今宵けぶれる月明の庭

—— 春 ——

朝まだき梅雨の晴れ間をふとみれば庭先明くぐみの實熟るる

さむざむと降り暮したる六月の或夜ひそかに螢來にけり

明りうすく床に臥ればほのぼのと螢は蚊帳の端に止れり

雨降る夜いたみ覺ゆる右肩をそつと抱きて座り居るかも